

2 福井県の特徴

【原子力発電による貢献】

本県には原子力発電所が数多く立地しており、原子力発電所13機の平成15年度の総発電量は約879億kWhであり、日本全体の原子力発電所による発電量（約2,400億kWh）の約37%を発電しています。

そのうち本県で消費している電気は約5億kWh（総発電量の約0.6%）とわずかであり、そのほとんどは関西に移出され、関西で消費される電気の約6割を供給しています。

原子力発電は、増加するエネルギー需要に対して安定的にエネルギーを供給するとともに、発電の際に二酸化炭素を排出しないことから、本県の原子力発電によって、石炭や石油の化石燃料による発電に比べて、年間約7,000万トンの二酸化炭素（本県排出量の約7.5倍量）の排出が継続的に抑制されていることとなります。

このことは、本県の原子力発電がなかった場合、関西地域全体の排出量（約1億8千万トン）を約40%押し上げることを意味し、この抑制量は、関西地域における全家庭から排出される温室効果ガスの約2.8倍に匹敵するものであり、関西地域での温室効果ガスの排出抑制に寄与していることとなります。

また、我が国の排出量を約5.5%、全世界の排出量を約0.3%も押し上げることになり、本県の原子力発電は地球温暖化防止に大きく貢献しています。

福井県の原子力発電所が、関西、日本の 温室効果ガスの排出抑制に大きく貢献

本県で現在稼働している13基の原子力発電所の発電
によって、石炭や石油の化石燃料による発電に比べて

《二酸化炭素：約7,000万トンの排出抑制》

（本県の排出量の約7.5倍量に相当）

本県の原子力発電がなかったとしたら……

- ・ 関西地域の温室効果ガス排出量を約40%押し上げます。
- ・ 我が国の温室効果ガス排出量を約5.5%押し上げます。
- ・ 世界全体の温室効果ガス排出量を約0.3%押し上げます。

【自動車社会】

福井県では、自動車は生活する上で欠くことのできない大切な移動手段となっています。福井県の自動車の普及状況は、1980年前後の「一家に一台」から、現在は「免許一枚に一台」となっており、平成16年度末の1世帯当たりの乗用車の保有台数は全国第1位となっています。

(H17.3月末)

	乗用車保有台数	
	1世帯当たり	1人当たり
福井県	1.75台 〔全国第1位〕	0.56台 〔全国第8位〕
全 国	1.11台	0.44台

また、排気量等の多い普通自動車（3ナンバー）の保有台数は、平成2年度の9,732台から平成15年度の112,344台と10倍以上も増加するなど、自動車の大型化が進んでいます。

【豊かな住環境】

福井県は、持ち家率が76.1%（平成15年）と高く全国第3位、持ち家一戸当たりの延べ床面積は、全国平均の約1.5倍に当たる171.2㎡と全国第2位となっています。

また、家庭における大型テレビや大型冷蔵庫、ルームエアコン等の台数が全国上位となっています。

	1世帯当たりの保有台数		
	大型テレビ (29インチ以上)	大型冷蔵庫 (300L以上)	ルームエアコン
福井県	0.67台 〔全国第1位〕	0.78台 〔全国第2位〕	2.8台 〔全国第3位〕
全 国	0.49台	0.69台	2.0台

(全国消費実態調査(2004)より)

このように、本県は、持ち家中心で、また、大きな家に大型の家電製品を備えた豊かな住環境となっていますが、この豊かな住環境等によって、電灯使用量も多く、本県の平成15年度の1世帯当たりの年間電灯使用量は全国第1位となっています。

	1世帯当たりの電灯使用量
福井県	7,249kWh/年
全 国	5,598kWh/年

(2003年度電気事業便覧より試算)

【豊かな森林】

我が国は、OECD（経済協力開発機構）加盟国、および森林面積100万ha以上かつ人口1000万人以上の国の中で、森林率（国土面積に占める森林面積の割合）が第3位（約67%）と高く、また、温室効果ガス排出量の多い上位10か国の中では第1位となっています。

【排出量上位10か国の森林率】

国名	世界の排出量に占める割合	森林率
アメリカ	24.4%	24.7%
中国	12.1%	17.5%
ロシア	6.2%	50.4%
日本	5.2%	67.0%
インド	4.7%	21.6%
ドイツ	3.4%	30.7%
イギリス	2.5%	11.6%
カナダ	1.9%	26.5%
イタリア	1.9%	34.0%
韓国	1.9%	63.3%

[森林率：平成16年度 森林・林業白書より]

こうした森林率の高い我が国にあって、本県は、森林面積（31万3千ha）が県土の約75%（全国第11位）を占め、森林の豊かな県と言えます。

森林は、木材の供給のほか、水源かん養、災害防止、ふれあいの場の提供など多面的な機能を有しています。特に、近年では、地球温暖化防止という視点から二酸化炭素の吸収源としての役割が大きく評価されています。

また、その成長の中で、吸収した二酸化炭素を幹や枝等に長期間にわたって蓄積することから、二酸化炭素の吸収源としての役割とともに、貯蔵庫としても大きく評価されています。

こうしたことから、本県の豊かな森林を適正に管理することが、地球温暖化防止に大きく貢献することになります。

身近な二酸化炭素排出とスギの二酸化炭素吸収量

《スギ1本当たり1年間に約14kgの二酸化炭素を吸収》

- ・ 人間1人が呼吸により排出する二酸化炭素（年間約320kg）
⇒ 23本のスギで吸収
 - ・ 乗用車1台から排出される二酸化炭素（年間約2,300kg）
⇒ 160本のスギで吸収
 - ・ 1世帯当たりの二酸化炭素排出量（年間約6,500kg）
⇒ 460本のスギで吸収
- ※ スギ：50年生（直径約26cm 樹高約22m）

【平成16年度 森林・林業白書より】